

鬼怒中だより

第4号


 令和 2年 9月14日
 発行者 校長 柿沼 靖雄

生徒信条 ～ 自ら判断し、実行し、責任を持とう ～

夏休み前後の生活

本年度の夏休みは、授業時間を確保する等の理由から、8月1日から8月16日までの2週間という短い期間でした。例年なら夏休みに入るとともに急激に暑くなり、宇河地区総合体育大会は猛暑の中行われることが多かったのですが、今年はその時期になっているのかかわらず比較的過ごしやすい日々が続き、学校の夏休みに合わせてくれたようでした。しかしながら夏休みが明けてからは連日猛暑が続き、コロナ対策として窓を少し開けてあることも影響していたのかもしれませんが、クーラーを使用しても全く涼しくならないような状況でした。窓ガラスが熱をもち教室を暖めてしまうようです。毎日、熱中症の心配をしていましたが、生徒たちはこの暑さの中でよく頑張ってくれました。「夏休みがある理由」を改めて強く感じました。来年はいつも通りの夏休みになるよう願うばかりです。

3年生部活動引退

7月いっぱいまで3年生が部活動を引退しました。新型コロナウイルス感染症のため、春季大会・総体大会がどちらも実施できずとても残念でした。3年生には6月に学校が再開された際に、「大会が中止になり非常に残念だが、自分の選んだ大好きなものを楽しんでやってほしい。そして後輩に鬼怒中の良き伝統を伝えてほしい。」と話しました。どの顧問からも、「3年生は本当によくやってくれた。」「熱心に後輩を育ててくれた。」という言葉が聞けました。3年生の皆さん、ありがとう。



代替えの大会が実施された部活動もありました。

外に水道が増えました

今年は大変暑い夏でした。秋に入ってもまだまだ暑さが収まりません。ここ数年、夏の暑さは昔とは比べ物にならないくらいだと言われており、慎重な熱中症対策が必要になってきました。本校の校庭には水道が2か所しかなかったため、PTAにお願いをして校庭南側（テニスコートとの間）に新しく設置をしていただきました。体育や部活動の際にすぐに水分補給ができます。ありがとうございました。



修学旅行 様々な学び

9月6日（日）から8日（火）の二泊三日、3年生が修学旅行に行ってきました。コロナ対策のため多くの学校行事や大会等が中止になってしまった中、とても楽しみにしていたことと思います。今年は例年通りの奈良・京都ではなく、東北地方の宮城・岩手へ行きました。第1日、松島湾で遊覧船に乗り日本三景のひとつの美しい風景に感動しました。震災遺構仙台市立荒浜小学校では、津波に破壊された校舎や近隣の住宅地の土台だけが残っている姿に、津波の破壊力のすごさを感じました。第2日は南三陸町の各所を回りながら、語り部さんから当時の話を聞いたり役場跡を見たりして、災害の悲惨さと、人々の復興と再発を防ごうとする強い思いに心を打たれました。漁業体験では、漁船に乗って海に出ました。思ったより速いスピードと波しぶきに歓声が上がりました。中尊寺では、関西（都）とは違った東日本の歴史を学ぶとともに、静かな落ち着いた雰囲気と歴史の重みを感じました。第3日は『盛岡手づくり村』で民芸品の制作に挑戦しましたが、皆思ったよりも上手に作り上げることができました。小岩井農場では一般の観光客には見られない牛舎や創設当時の建物等を見学し、酪農について学びました。岩手山を背景とした雄大な景色を眺めながら、牧場ならではのおいしいソフトクリームを手に満面の笑みを浮かべる姿が見られました。生徒たちは、訪れたそれぞれの場所で自分なりの様々な学びができました。これからの人生において意味のある旅行になったと思います。



* 学校HPにはカラー版が掲載されています。ぜひ、そちらもご覧ください。